スマブラ軍団VSサッカー日本代表？

ikki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
スマブラ軍団ＶＳサッカー日本代表？

【Ｎコード】
Ｎ６５５４Ｍ

【作者名】
ｉｋｋｉ

【あらすじ】
マスハンから呼び出されたメンバーたち。
果たして何が待っているのか？

（スマブラ軍団の大乱闘な日々の続編です。）
スマブラメンバー全部でます！！

日本代表さえ知っていれば、サッカーを知らなくても楽しめます！！
ぜひ読んでください！！

メンバーはマスハンの連絡により、ジム内のサッカー場に来ていた。

マリオ「何が始まるんだろな？」

ルイージ「サッカー場なんだから普通サッカーでしょ。」

マスハン「よし、皆集まったな。これより2チームに分かれて野球をする。」

全員「えええええっっっーーーー！！」

ファックス「サッカー場なら普通サッカーだろーーーー！！！」

ポケトレ「作者ファックスがファックスになってるぞ！！」

ファックス「おい作者、フォックスがファックスになってるぞ！ポケトレ、
ファックスがファックスって意味分かんねーぞ！！！」

ピチュー「さっきもファックスになってるでしゅよ！」

フォックス「作者もういい加減にしてくれよ・・・」

ｉｋｋｉ「すまんすまん！！俺の妹が気付かなかったらアウトだぞ！！」

フォックス「作者の妹さんありがとうございました。」

マスハン「おい、そろそろ本題に移っていいか？？」

ピカチュウ「たしか日本代表と戦うんだよね！！」

マスハン「なぜ知っている！！まあ、その通りだ。皆、出て来い！！」

皆「はーい」

川島「あ、マリオだ！！知ってる！！隣は知らないけど・・・」

本田「俺も知らねーや！！」

ルイージ「ルイージだよ！！覚えてよね！！」

松井「リンクだ！！海外でもゲームしてるよ！！」　（ゼルダの伝

説が、海外にあるかは不明）

ピーチ「カッコイーーー本物の本田選手だ！！」

マリオ「本田死ねーーー！！マリオファイナル！」

本田は上手く攻撃をかわした。火は、マスハンに向かって飛んでいる。

マスハン「ギャーーーー」

マリオ「マスハンすまん。もう乱暴に使わない。」

マスハンは、ばんそうこうを貼っていた。

マスハン「お前にはもううんざりだ！！早く試合はじめるぞ！！」

全員「はーーい」

なにやら岡田監督とマスハンが話し始めた。

マスハン「皆に話がある。スマブラ軍を三つに分けて、日本代表チームと４チームで競おうと思う。
　　優勝チームには、金メダルが授与される。優勝目指してがんばれ！！」

全員「おおおっっっーー！！」

マスハン「まず、チームわけだ。１チーム目、
　　マリオ、ルイージ、サムス、ドンキー、ファルコン、ネス、リンク、フォックス、
　　カービィ、ヨッシー、プリン、ピカチュウの１２人だ。

マリオ「初期スマブラメンバーじゃねえか！！手抜きじゃねえか！！」

ｉｋｋｉ「うるせえ！（怒）手抜きの何が悪い！！」

フォックス「作者開き直んなーー！」

ｉｋｋｉ「黙れファックスーーー！！（怒）」

フォックスはショック死した。

マスハン「あーあ、１チームは、１１人ピッタリで戦うのかーーー」

ヨッシー「はいっっっっっ！？」

マスハン「それでは2チーム目、マルス、ファルコ、ガノン、ピーチ、ウォッチ、ポポ、ナナ、
クッパ、ロイ、ピチュー、ミューツー、トゥーン、の、12人だ。

そして、余ったやつが3チームだ。ちなみに14人。
では1時間後に集合！それまで解散！！」

全員「わあーーー」

ガノン「チーム2は、二作目からだが、なぜ、Xで初登場のトゥーンがいるのだ??」

トゥーン「たぶん人数の都合上、最初から11人だと厳しいし、
DXに出ていた子供リンクと被ってるからじゃないかな?」

ガノン「なるほど。」

そしてあんなことやこんなことがあって、1時間が過ぎた。

マリオ「あんなことってどんなことかな？」

ルイージ「それを言うなって！！また作者に消されるぞ！！！」

マスハン「では、トーナメント表を発表する。これだ。」

優勝
―
「――――――）
―
「　　）
―
「　　）

―
―
―
―
チ
日
―
―
チ
チ
―
―
―
―
ム
本
―
―
ム
ム
―
―
―
―
２
表
１
３

ワリオ「作者にしては◎だな。」

ｉｋｋｉ「よくいった！ワリオ！！」

マスハン「まあこういうことだ。チーム２はピッチにいけーーー」

チーム２「はーーい」

ポポ「ナナ留守番頼むよ。」

ナナ「うん、がんばって！！」

チーム２は、１２人なので、ナナが休むのである。

一方日本代表チーム

岡田監督「よし。パラグアイ戦と同じメンバーで行くぞ！！行って来い！！」

選手「はい！行ってきます！！」

審判「よし、両チームきたな。じゃあ作者が面倒がっているので、前後半各15分で行くぞ！！
では日本代表チームからキックオフ！！」

大久保「それじゃ行くぜ！！スーパー大久保！！」

ピカッッ！！そして大久保はソニックの最後の切り札と同じように光っていた。

マルス「何でもありかよ！！じゃあこっちも行くぜ・・え？」

なんとマルスが話し終わるまえに大久保は行ってしまっていた。そして、いつの間にか
キーパーのガノンのみに・・

大久保「ガノンなら体当たりして倒してゴールだ！！！」

ガノン「うっとおしいやつだ。魔人拳！！！」

大久保が体当たりをする前に、魔人拳が当たっていた。

大久保「グホッ！！」

そういい残し、大久保は、ポケモンのロケット団みたいに、空に飛んでいった。

岡田監督「ぶはははははーーーー（笑）」

マスハン「大久保、一試合目、退場。」

マリオ、ルイージ「なんでやねん！！」

マスハン「これは何でもありの少林サッカーだーーー！！」

ｉｋｋｉ「ああーーー、大久保吹っ飛んだーー」

ヨッシー「作者が飛ばしたんでしょ！！」

サッカーに戻ります。

ガノン「ふん、ボールなんかとんでいけ！！」

ガノンはロングパスをミューツーに渡した。

ミューツーは、中澤を抜いてのこすは、キーパーだけだ。

ミューツー「いくぞ！！テレポーート！！」

そしてミューツーはゴールの中に入った。

ミューツー「ハハハハハハハ！！ボールがゴールに入ったぞ！！！。ってあれ、、、？」

ミューツーはゴールに入っていたが、ボールは入っていなかった。

ミューツー「ぬおおおお！！！ボールをテレポートさせるの忘れていたーー！！」

川島「ばーか！！！！！」

川島「カオスコントロール！！」（アシストフィギュアでシャドウがするやつ）

時間が川島以外緩やかになった。

そのころチーム2ゴール前

ポポ「わーーん！！ガノンが殴ったーーー！！（泣）」

ガノン「うるさいやつだ、お前も飛んでいけーーーー！！」

また、魔人拳を放った。

ここで川島のカオスコントロールは終わった。

ポポ「うわーんーーーー」

そのとき、ガノンの魔人拳で、まっすぐ飛んできたポポが、川島に、飛んできた。（秒速５０メートル）

川島「ふぎゃっ！！」

ポポにぶつかった反動で、川島も吹っ飛んだ。

川島は、ゴールに、ボールごと入っていた。

審判「ゴーーーーール！！！！！」

川島「うーーん・・・」

マリオ「ある意味コメディー超えてるよな・・・」

ファルコン「作者わや・・・・・」

スマブラチーム一点先制！！はたしてこのあとどうなる？？

ピピーー

審判「前半終了ーーーーー♪」

前半終了！！まずはチーム2のベンチの様子。

マスハン「ガノン、よくやったぞ！！！お前のゴールだ！！！！」

ガノン「へへへ、、、すごいだろ！！！」

トゥーン「このまま勝つぞーー！！」

チーム2「おおおおっっっっ！！」

一方日本代表チーム

岡田監督「はははは！！大久保と川島吹っ飛んだ！！」

長谷部「監督、笑い事じゃないですよ！！どうするんですか！！」

岡田監督「大丈夫だ！！試合が終わるとあいつも戻ってくる！！」

駒野「本当なんですか！？」

本田「では失点のほうは、どう取り返せば良いでしょうか！！」

岡田監督「相手を吹っ飛ばしてこい！！！」

メンバー「はい・・・・分かりました。」

そういってメンバーは行ってしまった。

審判「はじめーーー」

ピーーーー

始まった。

トゥーンのボールを本田が取る！！

本田「いけっ！！使いたくないけどネガディブゾーン！！！（ルイージの最後の切り札）」

本田のを中心にネガディブゾーンができた。

ルイージ「パクルなよーーーー！！！（怒）」

マスハン「うっさい！！！」

マスハンがルイージを投げ飛ばした。

ルイージ「さよーならーーー」

そういってこの小説中、ルイージは帰らぬ人となった。

マスハン「チーム１は１０人で戦うのか。」

サムス「まじで！！！」

ベンチがそうこうしてる間に、本田は、続々とチーム2のメンバーを倒していった。

トゥーン「ぐはっ・・・気分悪い・・・・」

ファルコ「ぎゃあぁぁぁぁぁぁ！！！」

ゼルダ「ひゃあぁぁぁぁぁぁ！！！」

そしてキーパーのガノンも・・・

ガノン「魔人け・・・・ぐはっ・・・・・・」

そして、本田は皆が倒れている間に、ゆうゆうとゴールを決めた。

審判「ゴーーーーール！！！！！同点！！！！！」

本田「ふん・・・俺の実力だ。」

審判「試合終了ーーーー」

本田「はいっ！！！！」

岡田監督「お前ゆっくりしすぎだぞ！！！これからＰＫだ！！！」

選手「はーーい」

審判「では、ＰＫをはじめる」

一回目　ファルコ○　　遠藤　○

二回目　マルス　○　本田　○
三回目　ガノン　○　駒野　○
四回目　トゥーン●　闘莉王●
五回目　クッパ　●　長谷部○

審判「こういう結果で日本代表決勝進出ーーー！！！」

ウルフ「ＰＫ地味だな。」

ｉｋｋｉ「まあ気にすんな。」

審判「１回戦２試合目、チーム１，３は準備しろーー。ちなみに、マスハンとの提案で
１点先制したら勝ちなーー」

マスハン「チーム１、がんばれよ！！１０人だけど。」

マリオ「さらっと言うなよ！！！」

そういってチーム1は、しぶしぶ準備についた。

審判「キックオフ！！」

そういってチーム3のボールから始まった。

ソニック「楽勝だぜ！！」

ソニックが自慢のスピードでどんどん抜いていく。

ソニック「弱いな・・・・ぐはっ！！」

突如姿を消したソニック。

そしてそのそばにはカービィ

カービィ「ゲフッ」

そうして、でてきたのは、ソニックのみであった。

カービィ「どう！ソニックとめたよ！！！」

マリオ「カービィ、そのままゴールへ突っ込め！！！」

ファルコン「カービィちょっとわるいな。」

そういうとファルコンはカービィを持って相手ゴールへと走り出した。

そして、

ファルコン「許せよカービィ・・・ファルコンパーーーンチ！！！」

カービィ「むぎゅ・・・」

なんとファルコンは、カービィにパンチをし、ゴールへ入れた。
しかし、威力が強すぎたため、ゴールの網が破け、カービィは事故死した。

審判「ゴーーーーール！！！」

マスハン「すげーなー！！ファルコン見直したぜ！！」

ファルコン「スゲーだろ！！」

ピカチュウ「それどころじゃないぞ！！カービィが死んじゃったんだよ！！」

マスハン「大丈夫だ！！この小説が終われば生き返る！！それよりもおまえたち決勝
９人で戦うんだぞ！！がんばれーーー」

マリオ「作者、この小説サッカーで打ったらでてくるぞ！！
この小説サッカー要素あるのか？」

ｉｋｋｉ「ないけどまあ気にすんな！！！！」

幽霊フォックス「気にしろよ！！」

審判「日本代表入れーーー」

幽霊フォックス「スルーかよ！！」

日本代表「はーーい」

9人になったチーム1と大久保が帰ってきた日本代表が、フィールドに着いた。

審判「よおーーーーーーーーい・・・・ピーーーーー!!!!!!

って言ったらはじめね!!!!」

ズシャアーーーー

全員コケた

長友「審判なんなんだよ！！！」

ピーーーーーー！！！

長友「始まった・・・定番かよ・・・」

さあ、ボールをもっているのはマリオだ！！

マリオ「これさあ、サムスのゼロレーダーでふっとばせばよくね？」

サムス「そうかもね・・・マリオ！ボールを銃口に入れて！！！」

マリオ「了解！！！」

そういってマリオは、足で銃口にサッカーボールを入れた。

サムス「いけっ！！！ゼロレーダーーーーー！！！」

そういってゼロレーダーを発射した。

ゼロレーダーは、あらゆる人をまきこんでいった。

大久保「またかいぃぃぃ！！！」

遠藤「なんだかなーーーーーー！！！」

ドンキー「何で俺までーーーーーー！！！」

川島「なんでやねんーーーーーー」

そして、ボールは、ゴールへはいった。

マリオ「ヒャッホーーイ！！優勝だ！！！」

審判「サムス、ハンド！！イエローカード！！！」

サムス「はい。うすうす気づいてました。すいません。」

ハンドしたところからキック。チーム１のゴールまで、２０メートル。

本田「決めてやるぜ！！無回転シューーート！！！」

プリン「絶対守るでしゅ！！！大きくなる！！！」

プリンはボールを跳ね返した。

本田「はあぁぁ！！！！入るわけねーだろ！！！！」

プリン「いくでしゅ！！！転がるシューーート！！！！」

プリンは元の大きさに戻った。そして、プリンも加わったボールは、ゴールへ秒速８０メートルで飛んでいった。

そのころ日本代表ゴール前

川島「絶対とめてやんぜ！！！！」

プリン「必殺！！歌う！！」

プリンの歌を聴いて、川島は眠ってしまった。

川島「ＺＺＺＺＺＺＺ」

ズシャァァァァァ

なんと川島が寝ているときに、ゴールに入った！！

審判「ゴーーーール！！！試合終了！！！！」

マスハン「みんな、よくやったぞ！！！ってあれ？」

プリンの歌で、選手たちは、全員眠っていた。（プリンは反動で気

絶）

そして1時間後

マリオ「よっしゃ勝ったーーーー！！！！」

ネス「優勝だね！！」

プリン「めでたしめでたしでしゅ！！！！」

そして、メダル授与のときは、得に笑いもなく終わった。

そして閉幕式・・

岡田監督「おしまいか・・・・」

長谷部「もうスマブラメンバーとは会えないんですね・・・」

本田「なんか、悲しくなるな・・・」

マスハン「いや、そんなことはない。」

日本代表メンバー「なんでさ?」

マスハン「なんかいると楽しそうだからさ、一小説一人なら出て良いぞ!!」

日本代表「やったーーー」

マスハン「さあ、次回からも、張り切っていくぞーーー!!」

全員「おーーーーーーーーーーー!!」

マスハン「よし、じゃあまずは日本代表を人間界へ戻すぞ！！！それっ！！！」

そして、マスハンの能力で、日本代表チームは、人間界へ帰っていた。

マスハン「さて、お前らも自由時間だ。解散ーーー！！」

全員「はーーい」

こうして楽しい一日を過ごしたメンバーたち。
果たしてどんな日々が待っているのか？

続く

（後書き）

スマブラ軍団の大乱闘な日々の続編です！！
すべて読んでくださいましてありがとうございます！！
次回は、「スマブラエクストリーム増やし鬼」を書こうと思います！！
よろしくおねがいします！！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6554m/

スマブラ軍団VSサッカー日本代表？

2010年10月10日07時13分発行